

第2回基山町総合教育会議

(要点筆記)

日 時：令和2年3月25日（水）午前9時30分～午前11時10分

場 所：基山町役場 4階大会議室

出席委員：5人

松田町長、柴田教育長、田口委員、津川委員、亀山委員

欠席委員：1人

福永委員

事務局：9人

総務企画課：熊本課長、熊本主幹、則本主任

教育学習課：井上課長、音成教育指導主事、久保山係長、主税係長

まちづくり課：井上課長 福祉課：吉田課長

こども課：今泉課長 定住促進課：亀山課長

健康増進課：中牟田課長

傍聴者：1人

1 開会

2 町長あいさつ

3 教育長あいさつ

4 議題

- ・学校規模の適正化について
- ・学校運営協議会について
- ・新型コロナウイルス感染症に関する対応について
- ・その他

5 閉会

1 開会

事務局進行

2 町長あいさつ

省略

3 教育長あいさつ

省略

町長進行

4 議題

・学校規模の適正化について

(学校規模の適正化について事務局から説明。)

- ・(町長) アンケートを実施する前の段階で、ニーズを把握しているのか。全くイメージが持てていない。実際に受け入れを行って見たら、誰も希望者がいなかったのではいけないと思う。
- ・(事務局) 個別で考えてみようか、という話は聞いたことがあるが、実際に件数を把握してはいない。しかし、基山小から若基小への転校を受け入れるかたちで進めていきたいと考えている。
- ・(町長) まず、資料1のP.2の3が大事になってくる。総合教育会議においては、個人的に(2)が最初にくる話であると感じていて、そのあとに(1)があると思っている。定住促進を進めたところで小学生がおられる世帯が転入することは少いため、小学生が急に増えることはなかなか期待できない。それは将来的に大事にはなってくるが、2~3年後に成果をだそうとするならば(1)は即効性がないと思う。(2)は現実的に難しいということなので、(3)に望みをかけるしかない。しかしながら、(3)も難しいとなってくると、結果として努力したが成果が得られなかったということも起こり得てしまう。他に対策として考えられるメニューがほしい。この問題は非常に難しいと痛感している。資料1の最終頁から、相当数の人数を若基小学校に増やさなければ学級が増えない。今考えられている対策は劇的に現状が変わるというわけではないので、そのあたりはしっかりと認識しておかなければならない。短期的に効果が期待できるような意見はないだろうか、というのが率直な意見である。
- ・(委員) 教育委員会の中でも長い間話し合ってきた。即効性のある話であれば、校区の編成が一番だと思う。地元からスムーズに理解を得るのも、子供達の引っ越しさせるのも相当ハードルが高いもので、5年10年かけて校区の変更を進

めていかなければならないと教育委員会でもそのような話になった。基山小学校では教室数が満杯になってきており、改築をしているが手一杯になってきている。まず一番手前でやれることは、ということで小規模特認校の制度活用があがった。将来的には基山町全体で子供達の人数バランスを考えて、校区の編成を必ず行わなければならないと感じている。まずは、(小規模特認校の活用を前提として) 基山小学校全体でアンケートをとることから始めようという話になった。本当は、就学前の世帯にもアンケートをとることが望ましいと思っている。とにかく、今は1人でも2人でも増やしていくことを何かしていかなければならないという事は皆様からご理解をいただきながら判断を進めていくべき。

- (教育長) 小規模特認校制度を導入すれば、若基小学校の規模適正化が必ず図れるとは断言できない。一番怖いのは、2クラスになりきれない人数だけ増えると課題が深まることになってしまう。一方で、3年生以上は基本40人で1クラスになるが、TTを外せば35人学級でもよいという決まりがあるので、そこまでの人数を伸ばすことが現実的ではないかと考えている。遠くの方でも若基小学校に通学できるように、車の送迎を可としている。基山小学校には、遠くから通っている方がおられてそのような方々が、送迎可ならばと若基小学校を選択してくれないかなという希望がある。
- (町長) このような機会なので願望のような意見でもよいと思う。例えば、私が委員なら若基送迎バスは用意できないか、という要望をだしてみたい。それくらいの話をしなければ、急激には変わらないと思う。急激に変わることの良し悪しもあるが。区の配置によっては、周りは若基小なのにそこだけ基山小というところもある。校区の変更が難しいなら、行政区を変更してみてもどうかとも考える。ただし、行政区の線引きを変えるのも昔からの歴史があるため、簡単に行政区や組合の変更は難しいことも分かっている。そのような事も含めて色々考えていかないと変わっていかないと思う。基山小校区にはこれからも家やマンションの建設予定があるので、今のままの増加ペースでは基山小学校校舎の増築が5年待たずに現実的になってくる。けやき台には約30戸の空き家があるので、地区計画の変更は時間がかかるのでこれは同時並行しながら、それを埋めていく話を進めたり、民間の頓挫しているプロジェクトを再度動かしてみたりしなければならない。デリケートな部分が多くて難しい問題である。
- (委員) 個人的には安易に校区割で適正化を図ることが即効性があると考えていた。
- (委員) もう一つ気になることは、子供の気持ちの問題がある。アンケートを実施すれば、親だけの意見が出てくることもある。子供の気持ちが一番大事なので、考えを聞く機会も設けたい。話が少しそれるが、基山町の行政区制度も限

界にきているのではないかと感じている。そもそも行政区のあり方と校区のあり方を同時に話し合ってもらいたい。

- ・(町長) 山手の地区には送迎バスをだして、若基小学校まで送るというのがお金はかかるが現実的ではないかと考えている。送迎可としても、毎日送れる方も少ないと思うので、もっといろいろ対策を練っていききたい。区制度の変更についても、区長方と話し合う等真摯に議論を展開していきたい。
- ・(委員) 人数が少ないことにデメリットよりもメリットを実感していた。過疎地域では1学級が当たり前なところもあると思う。児童数の多い少ないに、それぞれの良さはあると思う。
- ・(教育長) 1クラスで、いい学年であればそのままで問題ないが、課題を抱える学年がでてきた場合、学級崩壊をおこしたり重篤ないじめが起こったりしたところは、人間関係で分けてやる必要があると経験上感じている。また、学校の規模適正化からすると、2学級はほしいところ。
- ・(町長) ポイントはそこがスタートでその問題に加えて、基山小学校校舎を増築しなければならぬ問題も付随してくるので、学校規模適正化を図ることができれば、二つの問題を解決することができる。
- ・(教育長) 山間部のバス送迎は魅力をうみ、理解を得られるかもしれない。13区で社協のバスで送迎したときに、好評だった。
- ・(町長) 山間部や遠方の地区を回って送迎するならば、社協バスでは難しいのでタクシー会社等に委託することが現実的になってくると思う。
- ・(委員) 特別支援学級はどのようにするのかという話も重要になってくる。クラス単位が少ないので、基山校区では手一杯になってきている。基山小校区の保護者の理解を得ることができれば、基山小から若基小学校に転校し若基小の空き教室を活用し、若基・基山小の教室数の問題は解決につながる。
- ・(町長) 1クラスあたりの児童の人数設定が決まっており、その際に特別支援学級の児童は除くという決まりになっている。そのため、若基は2学級にならない。このことについては、特別支援学級の人数も増えてきていることと、一緒に過ごす時間が一定程度あるのでその最大数で編成する必要があると、機会があるごとに県や国に強く要望している。
これまでの意見をまとめると、まずアンケートを実施して小規模特認校の認定に向けて動いていく。次に、適正化の対策案について役場全体でもう一度議論を行っていく。ということではいかがか。

・(委員) そもそも区割りの話は、区長会等の中で話題に上がったことはあるのか。

・(町長) 上がったことはない。

・学校運営協議会について

(学校運営協議会について事務局から説明)

・(町長) 端的にまとめると何が大きく変わるのか。

・(委員) 学校と地域を結ぶコーディネーターを置きたいと考えている。少し人数的にも増やしたうえで、自立性をもって学校に関わりをもっていってもらい、人選が大事になってくる。

・(事務局) 学校現場の先生には賛否両論であった。今後を見据えたときに、ゲストティーチャーが参画してもらい機会が増えることによって、学校と地域との連携がスムーズになってくると思う。

・(教育長) 私も経験上ではないが、鳥栖市では先進地視察を行ったりしている。

・(町長) もしやるとすれば、各学校に置く必要がある。

・(委員) 学校評議委員の中でどのような議題があがってきているかがなかなか見えてきていない。これからの学校の運営の仕方は、働き方改革を進めていく観点で先生たちが学校の外でやっている仕事をやらずに済むようにして、本来の教育に注力してほしいとのが国の方針であり、これを進めれば地域から学校に寄って来るため、先生たちが動く必要がなくなるためそのような意味でプラスになる。実施するならば、学校評議員には学校運営協議会の委員になってもらうようになる。

・(委員) コミュニティ・スクール制度は賛成したい。現在の学校評議員は形式上の会議もあるので、これが実施できれば地域が学校に入ってくることが出来る。そうすれば、地域との連携もスムーズにとれていくイメージができる。

・(委員) 地域とつながって学校が運営されていくのは、大事なことである。また、学校の先生の負担が軽くなれば、なおよいと考えている。

・(町長) 副町長時代に、当時の教育委員会にコミュニティ・スクールの実施をな

げかけていたが、既成のものがあるため改めて作る必要はないとの考えだった。今回改めて教育委員会側から提案があったのはうれしく思う。

- ・ **新型コロナウイルス感染症に関する対応について**

(新型コロナウイルス感染症に関する対応について事務局から説明)

- ・ (町長) 佐賀市は本日約8割の施設が再開しているが、基山町では福岡市に近いこともあるので、施設の再開は順次と考えている。今回、学校と放課後児童クラブについてはスムーズに連携がとれているようにみえた。とてもよかったと思う。

- ・ **その他**

- ・ (町長) 今回の内容を受けて教育大綱の改正を少し、行ってもよいかと考えているがいかがか。
- ・ (委員) (反対意見なし)
- ・ (町長) 次回の総合教育会議までに改正案を町長部局でも、教育委員会でもんでもらい、決定したいと思う。

5 閉会

～11時10分閉会～